

# 令和3年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」結果の概要について

## 1 チェックリスト実施率の推移

- ▶ 令和3年度は2年度と比較して、子宮頸[集団]を除き、**実施率が上昇している**。
- ▶ 集団検診と個別検診を比較すると、**胃腸部エックス線を除き、個別が集団を上回っている**。
- ▶ 全国平均※と都の実施率を比較すると、**個別検診は全てのがん検診において、都の実施率が全国平均を上回っている**。  
※令和3年度の全国平均が現時点で未公表のため、2年度の全国平均との比較

＜平成30年度～令和3年度の都のチェックリスト実施率＞

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃腸部エックス線		胃内視鏡		集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診								
令和3年度	85.1%	82.9%	75.4%	80.9%	78.6%	80.3%	79.3%	80.3%	79.6%	80.6%	73.6%	80.8%
令和2年度	81.2%	76.7%	69.3%	78.0%	76.2%	76.6%	76.6%	78.2%	76.9%	79.1%	75.1%	79.4%
令和元年度	79.0%	73.0%	71.2%	69.6%	78.0%	73.6%	75.5%	73.5%	74.7%	76.7%	72.0%	77.4%
平成30年度	69.4%	65.6%	40.4%	70.0%	63.2%	65.5%	62.8%	63.3%	68.3%	68.3%	54.3%	67.6%
[参考]令和2年度 全国平均	81.1%	70.1%	73.6%	73.7%	80.8%	71.6%	80.7%	69.9%	81.5%	73.4%	81.3%	73.5%

## 2 [調査1：令和3年度のがん検診実施体制] の実施率（遵守状況）

＜調査1 チェックリスト実施率（都内区市町村）＞

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃腸部エックス線		胃内視鏡		集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診								
令和3年度	72.8%	68.7%	51.2%	66.6%	66.4%	67.3%	65.8%	68.0%	67.8%	68.1%	59.4%	67.9%
令和2年度	68.2%	66.7%	53.2%	65.5%	61.6%	65.8%	63.8%	68.1%	64.6%	68.4%	58.7%	66.2%
[参考]令和2年度 全国平均	75.6%	75.7%	62.7%	61.6%	75.3%	65.6%	75.3%	64.2%	76.2%	67.6%	75.8%	67.9%

- ▶ 前年度と比較して**全体的には改善傾向にあるが、全国平均を下回っている検診が多い**。
- ▶ 前年度と比較して**10ポイント以上改善した項目**は下表のとおり。  
**受診台帳整備（問2）、精検結果の共有及び精検受診勧奨（問4）、仕様書の遵守確認（問6）**

項目	都R3と都R2の比較 +10ポイント以上	
	集団検診 [検診の種類]	個別検診 [検診の種類]
問2-1 個人別の受診（記録）台帳またはデータベースを作成しましたか	胃内視鏡、大腸、肺	
問2-2 過去5年間の受診歴を記録していますか	胃内視鏡、肺	
問4-3 精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有	胃腸部エックス線、胃内視鏡、大腸	
問4-6 精検未受診者への受診勧奨	胃腸部エックス線、大腸、乳	
問6-1-2 検診終了後に、委託先検診機関（医療機関）で仕様書（もしくは実施要綱）の内容が遵守されたことを確認しましたか	胃腸部エックス線、胃内視鏡	

※複数の検診で改善したものに限る

- ▶ 前年度の都及び全国平均と比較し、**10ポイント以上下回った項目**は下表のとおり。

項目	都R3と都R2の比較 -10ポイント以上		全国との比較 -10ポイント以上	
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
問1-2 対象者全員への受診勧奨			○	○
問3-1 受診勧奨時の説明資料配付			○	
問3-2 要精検者全員に対し、受診可能な精密検査機関名の一覧を提示しましたか			○	
問3-2-1 精検機関一覧に記載した精検機関への精検結果報告依頼			○	
問4-1 精検方法・結果の把握			○	
問4-2 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果が不明の者については、本人もしくは精密検査機関への照会等により、結果を確認しましたか	○	該当項目なし	○	
問4-3 精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有			○	
問4-4 過去5年間の精密検査方法及び、精密検査（治療）結果を記録していますか			○	
問4-5 精密検査未受診と精密検査結果未把握を定義に従って区別し、精密検査未受診者を特定しましたか	○	なし	○	
問4-6 精検未受診者への受診勧奨			○	
問5-4 精検結果を健増報告に計上するための委託先への報告要求			○	
問5-5 精検結果の委託先からの報告が健増報告の全項目を網羅していない場合の改善要求			○	
問6-1-1 仕様書の内容は、「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」を満たしていましたか			○	
問6-2 検診機関への精度管理評価のフィードバック			○	
問6-2-1 検診機関用チェックリストの遵守状況のフィードバック			○	
問6-2-2 検診機関（医療機関）毎のプロセス指標値を集計してフィードバック			○	
問6-2-3 課題のある検診機関への改善策のフィードバック			○	

※複数の検診で下回ったものに限る

### 3 [調査2：令和元年度の精度管理指標の把握]の実施率（遵守状況）

《対象年度の考え方》

精度管理指標の把握には時間を要するため、調査実施時と対象年度では時点が異なる。

令和3年度調査の対象年度 ⇒ 令和元年度分の精度管理指標を把握

令和2年度調査の対象年度 ⇒ 平成30年度分の精度管理指標を把握

▶ 前年度と比較し、**10ポイント以上改善した**検診は下表のとおり。

➡ [集団] 早期がん割合の集計項目（問13・14）

[個別] 検診機関別の集計（問7・9・10・11・12） ※複数の検診で改善したものに限る

<調査2 チェックリスト実施率（都内区市町村）>

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃部エックス線		胃内視鏡									
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
令和3年度	97.5%	97.1%	99.6%	95.2%	90.8%	93.3%	93.3%	93.1%	90.2%	91.9%	86.4%	92.4%
令和2年度	94.3%	86.8%	84.1%	89.5%	90.7%	87.5%	89.9%	88.7%	88.0%	88.8%	89.8%	91.2%
[参考]令和2年度 全国平均	86.7%	75.4%	71.9%	79.5%	86.3%	77.4%	86.3%	75.3%	86.1%	78.3%	86.1%	78.6%

▶ 前年度と比較して**全体的には改善傾向**にあり、**概ね全国平均値を上回っている**。

項目	集団検診 [検診の種類]	個別検診 [検診の種類]
問7-1-2 受診者数の検診機関別の集計		胃部エックス線、胃内視鏡
問9-1-2 要精検率の検診機関別の集計		胃部エックス線、胃内視鏡、肺
問10-1-2 精検受診率の検診機関別の集計		胃部エックス線、胃内視鏡
問10-1-4 精検未受診率の集計		胃部エックス線、胃内視鏡、肺
問11-1-2 がん発見率の検診機関別の集計		胃部エックス線、胃内視鏡
問12-1-2 陽性反応適中度の検診機関別の集計		胃部エックス線、胃内視鏡、大腸
問13-1 早期がん割合の集計	胃部エックス線、胃内視鏡、肺	
問13-1-1 早期がん割合の性別・年齢5歳階級別の集計	胃部エックス線、胃内視鏡、肺	
問13-1-2 早期がん割合の検診機関別の集計	胃部エックス線、胃内視鏡、肺	胃部エックス線、胃内視鏡、大腸
問13-1-3 早期がん割合の検診受診歴別の集計	胃部エックス線、胃内視鏡、肺	
問14-1 (胃、大腸がん) 粘膜内がん、(乳がん) 非浸潤がんの集計	胃部エックス線、胃内視鏡	胃部エックス線、大腸

### 4 都内地域別の実施率（遵守状況）[集団検診※]

※個別検診については、多摩地域や島しょ地域で未実施の自治体が多いがん検診もあるため、集団のみ比較

▶ 23区・多摩地域・島しょ地域別の実施率を比較すると、**胃部エックス線** [調査2]を除くと、**23区>多摩地域>島しょ地域**で高い傾向にある。

<令和3年度 23区・多摩地域・島しょ地域別の実施率>

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃部エックス線		胃内視鏡									
	調査1	調査2	調査1	調査2	調査1	調査2	調査1	調査2	調査1	調査2	調査1	調査2
23区	81.2%	96.5%	69.2%	100.0%	78.6%	96.2%	84.6%	100.0%	72.4%	95.0%	83.7%	100.0%
多摩地域	71.0%	97.5%	-	-	70.9%	95.4%	67.8%	97.1%	67.8%	92.0%	65.4%	90.1%
島しょ地域	61.5%	100.0%	43.4%	99.4%	47.4%	76.5%	47.4%	79.1%	55.8%	68.1%	42.8%	76.3%

### 【総括】

○ [調査1：令和3年度の検診実施体制] について

- 前年度より、**検診実施体制は全体的に改善傾向**にある。
- 受診台帳整備、受診勧奨、仕様書に関する項目については、区市町村訪問や区市町村連絡会等を通じて**区市町村担当者の理解促進が図られたこと**が実施率の向上に繋がった要因の一つと考えられる。
- 精検方法及び結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有については、「**がん検診精検結果報告書（東京都統一様式）**」を使用する自治体が増えたことが、実施率の上昇に繋がった要因の一つと考えられる。
- 医療機関や医師会等との連携が必要な精検結果把握に関する項目や検診機関の質の担保に関する項目については**今後改善を図る必要がある**。

○ [調査2：令和元年度の精度管理指標の把握] について

- 都の実施率は**全国値を上回っており、精度管理指標の把握が進んでいる**状況である。
- 集団・個別検診ともに、受診率・要精検率・精検(未)受診率の把握が概ね出来ているが、**早期がん、粘膜内・非浸潤がん(胃・大・乳)、上皮内病変・IA期のがん(子)割合の把握**については**今後改善を図る必要がある**。

○ 都内地域別の実施率は全体的に、**23区>多摩地域>島しょ地域**で高い傾向にある。